

平成19年12月25日（原案作成）

南牧村の村民の皆様へ

私は仙台市で内科医院をしている一開業医です。私は偶然、水道水フッ素化の動きが厚生労働省から出され（2000年春から年末にかけて）て以来、この事業に疑問を持ち、医学的な面から勉強してきました。

米国では水道水フッ素化は広範囲に実施されていますが、米国の多数の自治体で、実施をしたり、中止をしたりと、論争があります。日本では実施の動きが10以上の自治体で持ち上がりました。ほとんどの場合、それら地元でフッ素応用の推進を進める歯科医がいる自治体です。しかし今までのところすべての自治体で反対運動が起こり、実施が見送られてきました。近くの下仁田町もその一つです。

日本では、水道水フッ素化が思うように進まないためだと思われませんが、保育・教育施設での集団的なフッ素洗口（正確にはフッ化物洗口）が2003年1月頃から強力的に推進されるようになりました。しかし、これも保育・教育現場の職員らの反対にあり、現在のところ約50万人の実施に止まっています。全国の園児や学童の人数は約1千万人以上はいますから、厚生労働省の公衆衛生施策としては、稀な、現場から支持されない事業といえるでしょう。

それはこの事業に、必要性、安全性、有効性などに大きな問題があるからで、反対している私たちからみれば至極当然なことです。今、実施しているところも早晩、実施を中止していくべきと考えます。これらフッ素応用については、詳しくはインターネットで、水道水フッ素化（fluoridation）、フッ化物洗口（fluoride mouth-rinsing）、フッ化物（fluoride）、安全性（safety）、有効性（effectiveness）などと入力して検索していただければ、さまざまな情報を大量に得ることができます。

私は南牧村の保健師（楠恭子さん）がこの事業の、特に安全性に疑問をもったことは当然のことで、むしろ村の将来を担う子どもたちの健やかな成長を預かる保健師さんとしてすばらしい感覚と責任感、勇気を持った方であると思います。ところが先般の裁判では敗訴となり、ついで免職となったことを伝え聞き、これは座視できないと強く思いました。それで「元群馬県南牧村保健師・楠恭子さんを支援する会」を作り、ホームページを開設しました。

私は薬害オンブズパーソン会議に所属し、またその仙台支部のフッ素班の班長として、養護教員を対象とした学習会の講師を何度も引き受け、この事業を推進している厚労省や日本口腔衛生学会の主張に反対しています。楠保健師のようにこの事業に疑問をとなえたり、反対したりする先生方が、子どものためにそうしているのに、教育委員会や、フッ素応用を推進する地域の歯科医師会からにらまれるという事例を多数知っています。しかし、それでも南牧村でのように配置転換・免職という事例は今ま

でなかったと思います。

支援する会のホームページの裁判資料にあるように、控えめに反対したのに村行政がここまでひどい扱いをすることは、信じられない思いです。村の行政がしたことや外郭団体（文化協会）が楠保健師に辞職勧告をしたことが村民の支持を受けているのか、疑問に思います。是非、この問題について村民の皆様が黙っていないで、反対した楠さんが間違っているのか、あるいは推進を図っている歯科医師が間違っているのか、皆で考えてほしいのです。子どもの健康を大切に考えて行った楠保健師を強引に免職させたことで、南牧村は後世に大きな禍根を残すことになると思うのです。このホームページの冒頭に書きましたように、科学的な論争にはいずれ必ず結論がでます。それは現在、進行中の薬害肝炎の問題でも同じです。フィブリノーゲンが使われた当時は厚労省が認め、多くの学者が使用を推奨し、何も分からない妊婦さんに使われ、多くの例でカルテが保存されておらず（カルテの保存期間は5年）、ほんの一部の被害者だけが訴訟できたのです。

フッ化物洗口による慢性毒性は見えにくいものでしょう。10年後、20年後にたとえ甲状腺機能低下や知能低下や骨肉腫がでて、子どもの頃にやったフッ化物洗口との因果関係は証明しにくいでしょう。将来、親がそのことを村あるいは歯科医に聞いても、無視されるでしょう。だからこそ、有効性がほとんどなく、低いとはいえ有害性が予測されるのですから「予防原則」にのっとり、このような事業は行ってはならないと思うのです。もともと必要性が低い事業なのですから、何ら支障はでないと思います。

私は村で学習会があればいつでも出かけるつもりです。現に高崎市で行われた自治労連が開いた学習会（平成19年5月27日）にも行きました。そこには富岡市の保健所長さんも来てフッ素応用の持論を展開しました。しかし小生の感想ですが、根拠が薄く、納得できるものではありませんでした。

是非、村民の皆様が、ここでこの問題を放置しないで、フッ化物洗口とはどういう事業なのかを自分らでよく知って、その上で行動していただきたいと切に願うものです。

加藤純二（仙台市宮城野区宮千代加藤内科医院院長）